

## 喘息(気管支喘息)のもととは気道の炎症

喘息の人の気道は、症状がないときでも常に炎症をおこしており、健康な人に比べて気道が狭くなって空気が通りにくくなっています。正常な気道ならなんともないホコリやタバコ、ストレスなどのわずかな刺激でも狭くなり、発作がおきてしまいます。咳や痰(たん)、息苦しさや「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という喘鳴(ぜんめい)など、さまざまな症状があります。最近では咳だけの喘息(咳喘息)も増加しています。また、胸の痛みやのどに感じる違和感なども喘息の症状のひとつです。

喘息の治療は、発作をおこさないための気道炎症の治療が中心となります。

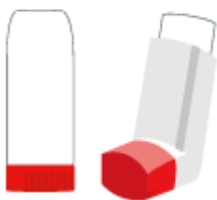
**喘息の発作は次のような時におこりやすい傾向があります。**

- ・夜間～早朝にかけて
- ・季節の変わり目、気温差がはげしいとき
- ・疲れたとき
- ・風邪をひいたとき
- ・発作を引き起こす刺激に触れたとき(タバコの煙、強い臭い)

## 薬剤が直接炎症部位にとどく吸入薬が主流

喘息の治療薬の形状は、内服薬、吸入薬、貼り薬、注射薬などさまざまあり、目的や患者さんの好み・年齢などに応じて使い分けがされます。中でも標的となる気道に直接届いて、少量で効果が得られる吸入薬が主に用いられています。

吸入薬



飲み薬



貼り薬



注射薬



そよかぜ診療所では、呼吸機能検査、採血でアレルギーに対する抗体検査、胸部レントゲンなどの検査を行うことができます。



薬がよく効くからといって症状がない時は、何も  
しなくても大丈夫というわけではありません。  
ふだんからの体調管理が重要です

院長